

2018年10月16日

## 三菱一号館美術館2019-2020展覧会スケジュールのお知らせ



ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ  
《ウエヌス・ウェルティコルディア(魔性のヴィーナス)》  
1863-68年頃、油彩/カンヴァス、83.8×71.2cm  
©Russell-Cotes Art Gallery & Museum, Bournemouth

### ラスキン生誕200年記念 ラファエル前派の軌跡 展

2019年3月14日(木)～6月9日(日)

主催：三菱一号館美術館

1848年、ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティらが結成したラファエル前派同盟は、英国美術の全面的な刷新をめざして、世の中に衝撃をもたらしました。この前衛芸術家たちの作品は、観る者の心に訴えかけ、広く共感を呼びました。人々は、社会の基盤が揺れ動かなかで、彼らの芸術に大きな意義を見出したのです。その精神的な指導者であるジョン・ラスキンは、あらゆる人にかかわる芸術の必要性を説く一方で、彼らとエドワード・バーン＝ジョーンズやウィリアム・モリスら、そして偉大な風景画家J. M. W. ターナーとを関連づけて考察しました。本展では、英米の美術館に所蔵される油彩画や水彩画、素描、ステンドグラス、タペストリー、家具など約150点を通じて、彼らの功績をたどり、この時代のゆたかな成果を展覧します。



マリアノ・フォルチュニ撮影「模様をプリントした絹ベルベットの衣装を身に着けたモデル」  
インクジェットプリント(オリジナル:1915年頃 オートクローム・リュミエール)  
フォルチュニ美術館蔵  
©Fondazione Musei Civici di Venezia - Museo Fortuny

### マリアノ・フォルチュニ 織りなすデザイン 展(仮)

2019年7月6日(土)～10月6日(日)(予定)

主催：三菱一号館美術館、毎日新聞社

軽くてしなやかな「デルフォス」(繊細なプリーツを施した絹サテンのドレス)で一躍20世紀初頭の服飾界の寵児となったマリアノ・フォルチュニ(1871-1949)。彼の邸宅兼アトリエを美術館として公開しているフォルチュニ美術館(ヴェネツィア)の全面的な協力のもと、本展では、フォルチュニ芸術の真骨頂である絹地のドレスやコートなどの服飾作品を軸に、絵画、版画、写真、舞台関連作品、彼が蒐集した日本の染め型紙を含むデザイン関連資料等を総合的に展覧します。スペインのグラナダで生まれ、ローマとパリで育ち、ヴェネツィアで制作して成功をおさめた彼の生い立ちから多彩な創作活動まで、近年世界的に注目されている総合芸術家・デザイナーの全貌に迫ります。



ピエール・オーギュスト・ルノワール  
《シュザンヌ・アダン嬢の肖像》  
1887年、パステル/紙、吉野石膏コレクション

### 吉野石膏コレクション 展(仮)

2019年10月30日(水)～2020年1月20日(月)(予定)

主催：三菱一号館美術館、共同通信社

ルノワール、モネ、ピカソ、シャガールなどの作品で国内有数の吉野石膏コレクションは、その質の高さも然ることながら、優しく、親しみやすい作品が多く、世界に誇るコレクションといえるでしょう。本展は吉野石膏株式会社の収集による粒選りの絵画群の、本格的な紹介の機会となります。中でも、ルノワール、ドガ、カサットのパステル画は、油彩や筆触分割という側面から語られることの多い印象派の、作家それぞれの技法の特徴と豊饒さについて、新たな視点をもたらしてくれます。本展では、モネ、ピサロ、シャガールの初期から晩年までの名品、シスレーの80年代の色彩豊かな風景画、ピカソの風景画など、他では見られない選りすぐりの72点をご紹介します。

※展覧会のタイトル・会期・内容等は2018年10月時点のものであり、今後変更になることもあります。最新の情報は美術館サイト (<http://mimt.jp>) をご確認ください。